

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170502470), 法人名 (医療法人社団高台病院), 事業所名 (グループホームはしどい), 所在地 (札幌市豊平区美園3条8丁目4-5), 自己評価作成日 (令和5年10月20日), 評価結果市町村受理日, 令和6年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である、一緒に協力し合い一人一人が自然体でいられる場「新しい我が家」を目指し、認知症の方ができるだけ自立してその人らしい生活が安心して送れるよう、職員一同努めています。ここ数年はコロナ禍で活動が制限される中、その中でもできる事、楽しめる事を探し、入居者の方々が明るい気持ちで過ごせるよう様々な催しやイベントを感染防止に留意しながら工夫して開催しています。食事は季節のものや入居者の方の好みのものを取り入れ職員が手作りで作っています。イベント時や誕生日には生寿司やケーキのデリバリーなども取り入れ、楽しい食事がより楽しみになるよう取り組んでいます。身体拘束や虐待の芽と言われている「不適切ケア」について毎年アンケートを取り、その結果をもとに自分達のケアを見直し、課題があれば全員で共有し改善に努め、常に思いやりを持ったケアの実践に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhou detail 022 k ani=true&JigvossyoCd=0170502470-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年11月21日)

- 1) 事業所の基本事項：市内を横断する主要国道に最寄り、近隣にはスーパーや学校等、交通・生活の利便性にも恵まれた環境下に立地している。
2) 職員の介護姿勢・態度等：職員は1人ひとりが自然体でいられる場「新しい我が家」を目指し、地域密着型サービスの意義を確認しながら、介護者側の都合で決めつけず、利用者本位の生活となるよう柔軟なケアを目標に自立支援、思いやりを持った介護に努めている。
3) 家族等の介護への好感：来訪時やお便り等の報告の丁寧さ、細かさ、利用者の心身の変化に即応した対応、家族からの意見・要望についての丁寧な回答に高い満足を示している。
4) 運営推進会議の開催状況：今年度は集合型で定例開催しており、意見、要望を聞き取り、職員間で内容について検討し、答える事で運営に活かしている。
5) 地域組織・機関等との連携：コロナが5類に分類された現在においても、共同生活の場としての感染防止対策に苦勞しながら、災害時の協力体制や地域行事参加等、連携を維持して、ホーム運営への理解に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がいつでも確認できるようフロア内に掲示したり、毎月理念に基づいた目標を立て実践に向けて取り組んでいるが、不十分などもある。	事業所理念を各所に掲示し、日常的に共有している。主に申し送りやフロア会議の場で振り返りながら、理念への理解を深めており、毎月目標を定め、その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染部類が5類に変更になったが未だ交流の機会は少ない。散歩の際に挨拶を交わす程度である。	現在も相互に往来を自粛しているが、地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。地域住民とのやり取り等、少しずつ出来る事から再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	対面での運営推進会議も再開された為、今後徐々に地域の方々に向けて発信する機会を持っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での運営推進会議を再開し、ホームの取り組みや状況等を報告・共有し、頂いた意見は運営に活かしている。	集合型での会議を実施し、地域包括支援センター職員、地域関係者、家族や利用者の参加を得ている。定例報告に加え、事故、ヒヤリハットや防災関係などを報告し、委員からの意見は事業所のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	未だ集団指導や管理者連絡会議が開催されておらず、管理者が直接話を聞く機会を持っていない。電話等で担当者と連絡を取り合い、協力関係を築いている。	市の担当者や包括支援センターからは、定例の運営推進会議での運営状況報告の他、メール・電話での相談や随時指導、アドバイスを受け、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の動画での内部研修、3か月に1回の身体拘束委員会の実施、各フロアで不適切ケアを減らす事を目標に取り組むなど、身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。玄関の施錠は不審者対策としてご家族同意のもと、時間を限定して行っている。	身体拘束委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて全職員にアンケートを行い、虐待も含めた具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の動画での内部研修を実施し、普段から不適切な対応等、ケアについて疑問があればフロア会議等で意見を出し合い、改善・防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学んではいるが十分な理解はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際に不安な点や疑問点があれば都度丁寧に説明し理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為ご家族の面会や訪問は減っているが、玄関に意見箱を設置し意見を出して頂けるようにしている。他書面や電話等で近況報告をする際などにご意見ご要望をお聞きし、ご意見等があれば職員間でも共有し運営に反映させている。	面会はガラス越しや玄関、敷地内等、多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開し、意見聴取の機会を持っている。また、ホームだよりに写真を添えて、個別の生活状況・健康状態について、詳細に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談の際に意見を聞いたり、申し送りや普段の業務内でも意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	申し送りや日業業務内の場で提案や意見を聞き取り、職員との関係を維持している。また、管理者による個別面談で意見やアイデア、工夫について運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの環境や希望に配慮しながら、労働環境に職場環境・条件の整備に努めている。 人員の補充ができていない事や、給与水準についてなど課題がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマに沿った内部研修(動画研修)を行い、知識の習得に努めている。 今後介護技術や緊急時の対応など、不十分と思われる部分のトレーニングの機会を持つ必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会がなくていけない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前より情報収集を行い、サービス開始後はご本人が気軽に話して頂ける雰囲気づくりに努め、ご本人の様子などからも思いを汲み取るなど、安心できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも事前に不安な事や要望等をお聞きし、サービス開始後も気になる様子等があればこまめに報告するなどし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に十分話をお聞きし、ご本人の様子からも汲み取りながら、その時必要な支援の見極めを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の習慣やできる事を活かし、できない事は一緒にお手伝いしながら自立支援を心がけたケアを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や来訪の機会が減っている為、現場のスタッフがご家族と関わる機会が減っているが、管理者やケアマネジャーを通じて関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れないよう、電話の取次ぎや手紙の投函等の支援を行っている。コロナの影響もあり、気軽に立ち寄るなどの来訪が減っており、馴染みの場所への支援があまりできていない。	馴染み、希望する場所への訪問は、感染防止に留意しながら、職員同行や家族の協力を得て、想いに添える様、支援している。外出が難しい場合は、手紙のやり取りや電話の取次ぎ等で関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を把握しながら、日々の活動やお手伝いなどを通して関わり合う機会を持つようし、支え合えるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後はほぼ関わりがなくなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない普段の会話などから希望や意向を聞き取り、それを職員間で共有し、希望に添えるように努めている。意思表示の困難な方は普段の様子や表情、生活歴や背景など、本人の立場に立って考え把握に努めている。	毎日の生活に寄り添い、かかわりの中から、好き嫌いや希望等について、利用者から具体的な思いを聞き取り把握し、本人本位の生活となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご家族や前施設、病院などから情報を頂き、職員間で共有している。入居後本人からもお話を聞くなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段から何か気づいた事などがあれば業務内で共有しあい、その他申し送りや支援経過記録を活用し、全スタッフで把握、共有できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見を出し合い、ご家族の意見も反映しながら課題等を検討し、介護計画を作成している。	本人の気持ち、思いを大切に家族の意向を据えながら計画を作成し、短期目標を設定している。日々の職員の気付きやモニタリング結果を基に課題評価を行い、本人と家族、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を基本とし、ささいな事でも何か変化などがあれば個別支援経過記録や変化発見レポートに記録し全員で共有している。それをもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズを十分検討し、柔軟な支援やサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度より外出レクリエーションを再開し、少しずつ地域資源を利用した支援を行っているが、様子を見ながら行っている最中の為それ程機会がなく、今後徐々にそういった機会を増やしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医に受診できるよう支援している。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。主に母体医療法人からの支援体制があり、随時助言を得ている。個別記録の活用で、支援方法を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か小さな事でも変化や気づきがあれば都度看護師に報告・相談を行い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーを中心に、入退院時は入院先との情報交換や相談を密に行っている。 母体の病院とは常に連絡を取り合い関係づくりはできている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針を文書で説明し、早い段階から重度化した際のおおまかな意向を伺っている。重度化が近づいてきた際には改めてホームでできる事、できない事の説明を行い、母体の病院も含めて話し合い、本人と家族の意向に添えるよう努めている。意向の再確認が必要な方や細かい部分の確認ができていない方もいる為、今後行っていく。	看取りに関する指針をもとに、あらかじめ話し合い家族の意向を確認している。また、カンファレンスにて終末期の関わりなど話し合い、ご家族にも相談し、方向性を出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアル等で学ぶ機会はあるが、実践力としては不安がある。現状は都度看護師に細かい指示をもらい対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害に備えた訓練を実施しているが、地域の方を交えた訓練は実施できておらず、協力体制に不安がある。	マニュアルを基に、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。介護時の災害等、具体的な設定での自主訓練、ライフラインの整備に取り組んでいる。	現在も地域がコロナ禍と変わらず自粛傾向にある。災害時の相互の協力体制の再構築を進めていることから、進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の人格を尊重をし、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。フロア目標として取り組むなど不適切な対応にならないよう努めている。	職員は利用者の人格・個別性の尊厳を介護の基本と捉えて、いかなる時も尊厳を損なうことない介護に専念している。定期的に接遇やケア手法等の見直しの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を遠慮なく表せるよう、良い関係作り、雰囲気作りに努めている。自発的に表すことが難しい方にはこちらから思いを伺うなどし、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力一人一人のペースに合った対応を心がけている。どうしても職員や他入居者に合わせて頂かなければならない場面では、必ず理由を添えるなど一方的な支援にならないよう気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、サポートが必要な方には何を着られるかお聞きしている。行事では化粧をして頂いたり、日々の整髪等にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防から調理は職員が主に行っているが、気を付けながら出来る方には野菜を切ったり盛り付けをして頂いている。片づけはそれぞれが役割を持ってお手伝い頂いている。誕生日や行事食など好みを取り入れ提供している。	利用者の嗜好、季節感ある食材による温かい食事を提供し、好きなお手伝いをお願いして、食事が楽しみあるひと時となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	温度版やケアチェック表を活用し、それぞれの食事量や水分量を把握し共有している。過不足がないよう個々に合った支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアの支援を行い、必要時は歯科往診を受けて頂いたり、歯科より助言をもらい口腔ケアに活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアチェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、サポートが必要な方はなるべく失敗がないよう表情や様子、排泄間隔を見ながらそれぞれに合った支援を行っている。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有する等、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションなど身体を動かす機会を作り、排便状況を見ながら水分量の調整や下剤の調整など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯など希望があれば添えるよう努めている。予定や入浴間隔にとらわれず必要時は入浴できるよう調整している。行事や他入居者を優先しなければいけない場合などはきちんと説明し相談の上調整している。	個々の希望、状態に合った入浴を心掛けている。無理強いくことなく、時間や担当者に変化をつけ、好みの入浴剤を使用する等、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースを尊重し、共有スペースや居室でそれぞれ自由に休息して頂いている。体操やレクリエーションなど日中の活動への参加を声掛けし夜間十分睡眠が取れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングし、処方薬についてすぐに確認できるようにしている。新たな処方があれば看護師より副作用や注意事項などを周知し、全員で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や好きな活動、楽しみごとを把握し、それぞれが楽しくやりがいを持って過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響や人員の都合等もあり、その日の希望に沿った外出は難しいが、天気のいい日など近隣の散歩や外気浴を行っている。長年帰っていなかったご自宅へ、連れて行ってあげたいとの希望があり、家族と協力し数年ぶりに自宅への外出が実現できた例があった。状況を見ながらではあるが今年度より外出行事も再開しており、今後徐々に外出の支援を増やしていきたい。	コロナ禍、利用者の重度化により、全員での外出行事は難しくなっているが、個別に声掛けし、感染防止に留意しながら、閉じこもらないよう外出の機会を設けている。また、事業所内でのレクリエーションの充実に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は事務所で管理となっているが、希望のある方は家族と相談し個人で持って頂く事も可能。外出の機会があまりない為、ご自身でお金を使う場面がなかなかないが、職員が買い物代行をしたり、インターネットで商品を選んでもらうなどして買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望があれば基本自由にやりとりをして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節感が出るような飾りや、入居者の作品などを飾り、明るい空間、雰囲気を作っている。室温や湿度、換気にも配慮し、心地よく過ごして頂けるよう努めている。	共用空間は程良い広さで、温・湿度や換気、テレビ音や照明、眩しさも個々の様子を見て都度、調整している。清潔に配慮し、壁や天井に季節の装飾を掲示し、落ち着いてゆったり過ごせるよう、それぞれの心地よい居場所感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者のADLや入居者同士の関係性にも配慮しながら、それぞれが安心して快適に過ごせるよう、ソファや食卓の配置や席など、状況に合わせて変えるなど工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や好みの物を持ってきて頂き、安心して居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	本人の安心できる環境を整えるために、入居前の自宅の様子を理解し、動線やベットの配置を検討している。思い入れのあるものが持ち込まれ、家族写真や趣味の物を手元に置いて、自分らしく安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい目印やご自分の作品を飾るなどして、迷われたり混乱される事がないよう工夫している。		